

0. 登録番号           d-003          

1. 提案のタイトル

るめぐる～つながる、流れる、めぐる～

2. 提案の趣旨

世界中の人々が集まる万博では、様々な文化や技術が交わってつながり、未来に受け継がれていく。人と人のつながり、豊かな自然、あらゆる文化・技術・資源が連鎖してつながり、形を変えながらも絶えることなく流れ、未来までめぐっていく。そんな未来を願い、万博会場に「景色、関西、季節、水、いのち、資源、時代」という7つの「めぐる」要素を取り込み、以下の3点を提案する。

1点目として、港・水辺・水路を整備し、夢洲内外での水上移動、水の流れる場を感じる場を創出する。会場へのアクセス手段に船を加え、夢洲の西側と南側に川と海からの玄関口となる港を整備して関西各地とつなぎ、利便性の向上、渋滞緩和を促すとともに観光資源として活用する。港にはロングデッキを設け、人々の交流の場とし、夕日などの景色や季節を感じられるデザインを取り入れる。会場内には水路をめぐらせ、船による移動を可能にし、水遊び場を設置する。

2点目として、いのちのゾーンを設け、会期中の生き物の避難場所として水辺のビオトープを設置する。水上には球形や円盤状の浮き島を多数浮かべることにより風景としても面白みを持たせ、浮き島ごとに特色ある多様な環境を創出することで、多くの生き物を呼び込む。会期後もビオトープとして憩いの場となることを目指すが、万一開発による撤去が決定した場合でも、水上に浮かぶ移動式のビオトープであるため、浮き島ごと引っ越しさせることで、生き物への影響を低減できる。

3点目として、農業が身近なものとなるよう会場に風景として取り込む。通路をはじめ様々な空間で作物の水耕栽培を行い、農業が都市緑化の1つとして、風景に溶け込むことを目指す。また、水上に浮かぶ休憩スペースやレストランと組み合わせた新しい農空間を創出することで、多様化するライフスタイルに合わせた場所にとらわれない農業の実現を目指す。

以上のような、様々な「めぐる」を実感・体験できる会場作りを提案する。

3. アピールポイント

開催地となる夢洲は立地や自然環境に大きな特色があり、魅力の詰まった島である。本提案においては、夢洲の特色を最大限に活かし、夢洲だからこそ実現できる「めぐる」を多く盛り込んでいく。港・水辺・水路のデザインにおいては、大阪湾に位置し、四方が海に囲まれ、関西の山々や街を臨むことができる夢洲の魅力、夢洲からつながる関西の魅力を表現した。また、廃棄物や建設残土から形成された島が現在では生物多様性のホットスポットとして機能しており、今後も独自の生態系が続く場所であってほしいという願いを込めて、生き物・緑・作物といった様々な形の「いのち」を感じる空間を盛り込んだ。さらに、会期後の夢洲の開発については不透明な部分が多いため、移動式のプランターや水上ホテル、水上ビオトープを用いて、資源やいのちが循環できるよう考慮した。